

彦根市総合計画審議会 会議録要旨

彦根市総合計画審議会第2部会第1回会議		
日 時	令和3年4月23日(金) 14:00~16:00	
場 所	彦根勤労福祉会館 中ホール	
出席者	審議会	別紙のとおり
	市職員	別紙のとおり
欠 席 委 員	堀口委員、吉田委員	

会議録の確定	
署名 (審議会部会長)	

1. 開会

[司会]

ただ今から、第2部会第1回会議を開催させていただきます。

部会長、副部会長が選出されますまでの間、大変僭越でございますけれども、事務局の方で進行をさせていただきますと存じます。

私は、企画振興部次長の馬場でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の部会は、16時を目処としておりますが、件数も2件ということですので、充分審議をつくしていただきましたら、それより早くに終了となることもあるかと思えます。会議が円滑に進行できますようご協力の程、よろしくお願いいたします。

2. 議題

(1) 部会長・副部会長について

[司会]

それでは、会議次第に従いまして、議題(1)の「部会長・副部会長の選出について」でございますが、まず、部会長の選出についてお諮りいたします。

彦根市総合計画審議会条例第6条第3項に、「部会に部会長および副部会長各1人を置き、部会に属する委員の互選により定める。」とあります。これについて選出の方法をいかがいたしましょうか。

もしご意見等なければ、事務局案をお示しさせていただいてもよろしいでしょうか。

(委員承諾)

事務局案といたしまして、部会長は原委員、副部会長は山本委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(委員異議なし)

ご意見もございませんようですので、部会長は原委員に、副部会長は山本委員にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、原部会長様、お席の方へお願いいたします。

(部会長席に移動)

それでは、これからの議事の進行につきましては、原部会長様どうぞよろしくお願いいたします。

[部会長]

ただ今、部会長として選出していただきました原と申します。滋賀県立大学で教員をしております。

はなはだ若輩者ですので、部会長ということで、務められるか皆様不安に思われるところかと思えます。この部会は全体会議に比べ少人数にもなりますし、いろいろなご分野から皆様専門性をもってご参加いただいていると思えますので、皆様の専門性、そしてご経験や日ごろの取組を生かしながら一緒に審議していけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本部会では、子育て・次世代育成・教育の施策について審議することになっております。それにご関係の皆様が集まってくださっているかと思えます。本日早速審議事項も入ってまいりますけれども、ぜひ皆様のご経験やご意見を活発にご議論いただきまして将来の彦根のまちづくりをどうするかという視点から審議をしていけたら幸いです。これぐらいの人数ですので、ぜひご自由にご発言いただきたい

と思いますし、あまり堅苦しくなりすぎずに議論ができたらと思っております。部会長はあまり発言をしないほうが良いかと立場的には思いますが、少人数ですので、部会長としてまとめはさせていただきますけれども、私も同じような立場でひらで議論をしていけたらと思います。事務局より記録は丁寧な形で起こしていただけると聞いておりますので、あまり形式ばらずにいろいろなご意見をいただけたらと思っております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 次期彦根市総合計画基本計画素案(案)の審議について

[部会長]

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。議題の(2)の「次期彦根市総合計画基本計画素案(案)の審議について」でございます。事務局から説明をお願いいたします。

[事務局]

議題の(2)「次期彦根市総合計画基本計画素案(案)の審議について」、全体の流れ等をご説明させていただきます。

資料 B1-2、「彦根市総合計画審議会 部会会議について」をご覧ください。まずスケジュールでございますけれども、全4回を予定しております。基本的には月1回で4月から7月にかけて開催させていただく予定ですが、ただ、委員の皆様のご都合によって日程の変動があらうかと思っております。本日、委員の皆様の上に日程の調整連絡を置かせていただいておりますので、期日までに、来週の金曜日を締めとさせていただきますので、ご記入いただきまして事務局のほうにご提出いただければと思います。

各会議の内容についてですが、第1から第3回までの会議でひとりの施策の審議をお願いしまして、第4回の会議で、1から3回の会議でいただいた意見を受けました修正案を提示させていただいたのちに、それ以外の政策の方向性の名称などについてもご議論をいただければと思います。審議していただく内容に関しましては、資料 B1-3 施策体系案、こちらが審議いただく内容となっております。第2部会につきましては、中段のところにあります6つの施策につきましてご審議をお願いしたいと思います。

資料 B1-2 に戻りまして、「2 部会開催日決定から修正(案)の提出までの流れ」でございますが、まず、事務局のほうから日程、場所、審議する施策等を通知させていただきます。この際に、当該施策に関係が深い委員の方の出席状況もできるだけ考慮して審議する施策を決定させていただきたいと考えております。当日は、説明者を入れ替えながら進めさせていただきたいと思っております。また、部会の審議で提案・修正等の意見があった場合は、部会の第4回会議で修正案を提出させていただきたいと考えております。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては説明者についてもオンライン出席となる可能性がございますので、この点をご了承いただきたいと思います。

続きまして、「3 審議の流れ」ですが、まず施策ごとに全体的な説明を事務局のほうから行わせていただきます。それを受けまして部会の皆様に審議いただきますが、質疑応答に関しましては、いただいた質問に関しまして、本日説明員が出ておりますので、説明員によって回答させていただきます。さらにご意見を受けて、ひととおりのご意見がまとまりましたら、審議会部会長から部会としての修正内容・提案等を集約していただきまして、施策担当部局にお伝えいただきたいと思います。審議会以降に

行う作業としまして、関係課において素案を修正させていただきまして、部会の第4回会議の際に修正案を示させていただきたいと思っております。こういった流れで進めさせていただきたいと考えております。

続きまして、先ほどご覧いただきました資料B1-3をご覧ください。こちらが施策の体系案になっております。こちらの検討経過をご説明させていただきます。検討にあたりましては、庁内のほうでも検討委員会を設けまして、こちら審議会と同じく4つの部会にわかれまして基本計画素案の検討を行ってまいりました。本日皆様のお手元にお配りしております「参考 検討委員会名簿」をご覧ください。こちらの第2部会に関しましては、庁内検討委員会におきましては、子ども未来部長の多湖が部会長です。本日、申し訳ございませんが、多湖は他の公務があり欠席させていただいておりますが、副部会長が教育部長の広瀬になっておりまして、副部会長の広瀬は本日出席させていただいており、審議を一緒に聞かせていただきたいと思います。また、それぞれの施策の担当課がこの部会のもとで作成してまいりまして、本日説明員としまして各施策に関係する各所属の代表のものが説明者としてまいっておりますので、よろしくお願いたします。基本的にはこの施策体系に関しましては、現行の計画をベースにしながら、さらに新しいところを加えたり、統合したりを各部会で検討して作成したものでございます。

続きまして、実際の施策に関しましては、資料B1-4でございます。この資料の見方について説明させていただければと思います。本日の最初の施策は「施策2-1-5 高等教育機関との連携」でございます。まず、「現状と課題」はこの施策に関する現状と課題を簡潔に文章化しております。次の「12年後の姿」では、総合計画の基本構想が今から12年後をめざして作成するものですので、12年後の令和15年度においてどういった姿をめざしていくのかを記載しております。次の「4年後の目標」に関しましては、基本構想の12年間で4年間ごとに前期、中期、後期と区切りまして具体的な施策を記載します総合計画基本計画をつくってまいりますので、12年後を見据えながら、この4年間でどういったところまでもっていくのか、そういう中間目標を設定しております。そして次の「指標」におきましては、この4年後の目標を測るうえで、進捗状況をどのように測るかの指標を設定しております。なお、この指標に関しましては、本日の審議におきましては、数値の細かいところというより、むしろこの指標が妥当かどうかということを中心に審議していただければと考えております。指標の数値に関しましては、指標のすべてが出そろった段階で事務局のほうで整理をさせていただきまして、すべての指標に関してまとめてご覧いただく機会を設けたいと思っておりますので、数値の細かい設定につきましては、その時にご議論いただければ幸いです。続きまして、次のページの「主な取組」は、4年間の目標にもっていくためにどういったことをするかを記載させていただいております。上段が市が中心となって進める取組を記載しており、下段で多様な主体と連携する取組としてどういったことを行うかを記載しております。最後の「関連する個別計画」におきましては、この施策に関係しますそれぞれの個別計画がある場合は記載させていただいております。

以上が議題(2)に関する説明でございます。ご審議のほどよろしくお願いたします。

[部会長]

今事務局から説明いただいたことに関しまして、何かご質問等ございますでしょうか。

[部会長]

検討委員会を庁内で設けて施策体系案をお作りいただいたと説明がありましたが、どのぐらいの規模で行われたかということと、今後この審議会部会で検討したことを持ち帰って修正案をお示しいただく際に、庁内の検討委員会で検討いただくのか、各課に持ち帰るといったことなのかについて説明をお願いいたします。

[事務局]

検討委員会に関しましては、庁内の施策の全部局が参加するもので、それぞれの施策を担当する部局が検討委員会のメンバーとなっています。検討委員会の部会長を頂点としまして施策のとりまとめを行っております。従いまして全庁的に網羅的に参加しております。2点目の修正に関しましては、基本的には該当する部局が修正を行います。当然のことながら検討委員会のほうでもんでいただいて全体の調和、調整をはかっていただいた上で提出いただくことを考えております。

[部会長]

その他、いかがでしょうか。皆様、今後の審議がどのように進むかイメージがつかまりましたでしょうか。

そうでしたら、次の議題に進ませていただきたいと思います。

(3) 所管事項の審議について

[部会長]

それでは、議題(3)「所管事項の審議」についてでございます。先ほど資料B1-3で第2部会は6項目の事項があると説明いただきました。その6項目のうち、本日は2項目分で、「2-1-5 高等教育機関との連携」と「2-1-6 若者の定住・移住の促進」の2つについて審議を行うということになっております。

まず1つ目、「2-1-5 高等教育機関との連携」について、事務局から説明をお願いして、そのあと審議にうつりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

[事務局(企画課)]

概要のほう説明させていただきます。施策「2-1-5 高等教育機関との連携」でございます。

「現状と課題」といたしましては、

- ◇大学との緊密な連携を図るため、市内の大学をはじめ県内の大学とも協定を締結し、様々な分野における協力・連携を現在も進めているという状況でございます。今後につきましても、さらに各大学の個性を生かして積極的に連携を進めていく必要があります。
- ◇2点目としまして、県内の大学・自治体・産業界等で構成する協議会に彦根市としても参加しまして、共通する課題の解決、広域な地域における連携事業に取り組んでいる状況でございます。現在も取組を進めている状況ですが、適切な役割分担を行いながら、さらに一体での広域での連携を進めていく必要があると認識しております。
- ◇3点目としまして、彦根市は市内に3つの大学が立地するという優位性がございますので、多くの

若者が学生生活を送っておられます。各大学との協力・連携に取り組みまして、学生さんが卒業後も彦根市に定着していただけるように、地元企業とのマッチングを強化するなどさらに市内の就職の向上に取り組んでいきたいという状況でございます。

この施策につきましては、現総合計画でも盛り込んでいる施策で、現行の後期基本計画を継承するというものでございます。

続いて、「12年後の姿」ですが、

◇「知の拠点」である大学等との連携により、地域力を高め、地域社会の活性化をめざします。

◇地域で学び、地域を学んだ学生が卒業後も彦根市に定着していただくことで、本市での若い力が推進力となり、地域力が向上することをめざします。

「12年後の姿」を見据えた最初の4年間における「4年後の目標」は、

◇実際に、大学等と連携した地域課題解決の取組の実施

◇市内大学卒業生の市内居住・市内就職の促進をして、定住者の増加

をめざします。この目標を測っていく「指標」としまして、現計画と同様ですが、

「大学と地域との連携・相互協力事業数」、本市と大学が連携して行っている事業を増やしていくことによって、連携の状況がみえるのではないかと考えます。

もう1点、「市内3大学新卒者の市内就職者数」、魅力を感じて彦根市に定住していただけるということでの就職者数の増加を図っていききたいと考えます。

「主な取組」としまして、

大学との連携強化

市内3大学卒業生をはじめとした若者の定住促進

地域課題の解決に向けた職員の育成

多様な主体との連携による取組では、環びわ湖大学・地域コンソーシアムやびわこ東北部地域連携協議会に参加し、地域の発展に向けて、様々な連携で取組を進めていくことを想定しております。

以上が説明となります。どうぞご審議よろしくお願いたします。

[部会長]

それでは審議に入りたいと思います。どのようなところからでも構わないと思いますのでご意見をいただければと思います。いかかでしょうか。

[委員]

表現として不適切なものが出てきてしまいましたら申し訳ございません。冒頭にお詫びさせていただきます。まず、大学との連携というところがとても頻繁に出てきますが、それについて具体的なものが全く見えてきません。連携強化、連携、連携というところの具体的なところをお聞きしたいと思いました。お願いたします。

[事務局（企画課）]

大学との連携につきましては、市内3大学は当然ですが、県内の他の大学もあり、各大学さんと協定を結びまして、それぞれの学部など、大学の専門性を生かして、市の施策や課題解決に向けた研究や学

生さんも含め地域の活性化や課題解決に向けた事業をお願いしてバックしていただくといった連携を行っています。また、様々な学生さんの活動、例えば、昨年、聖泉大学の学生さんに彦根市の防災訓練での避難所の設置で具体的な連携をさせていただきました。もし災害が起こった時には、地域で連携がしてもらえそうな取組です。他にも、企画だけでなく、市民生活に密着した点での学生さんとのコラボや研究などで連携しております。大学の研究は知的資源であり、調査研究の依頼、行政課題の解決として、具体的な事業は年々50 数件ぐらいの事業をお願いしたり連携したりしています。具体的な事業をあげさせてもらったほうがよろしいでしょうか。

[委員]

具体的な事業をあげだしたらきりがないと察しますが、なかでもこれは言いたいな、ぜひこれは言わせてほしいというものがあれば、お聞きできればうれしいです。

[事務局（企画課）]

具体的なものの一例としましてご説明します。滋賀大学のほうにデータサイエンス学部というところがございます。様々なビッグデータ等から傾向等を読み取って分析することを専門的に行っていただけの部門です。今年度、そちらに、数字やデータを提供させていただいて、彦根市が抱えている行政課題を解決する糸口をみつけていただいて、最終的に解決まで導いていただく事業を委託させていただいており、大学とともに地域が抱えている課題を解決しようという取組を進めようとしております。

[委員]

私の地域で、滋賀県立大学の大学生が「おとくらプロジェクト」で活動しており、今度12年目になります。大学生に協力してもらっていますが、その中で、なかなか難しいのが現実です。学生も勉強もしなければいけないし、遊びも、いろいろな人生経験もしなければいけないだろうと思います。大学、大学と言っているわりには、データサイエンスは聞くが、実際の取組をもう少し考えていかなければ、絵に描いた餅にならないかと思えます。どうしたらいいか、12年間やっている間でもメンバーは変わっていきますので、その子らがそこで楽しむことも考えなければいけないということもあります。大学が3つもあって、すごいと思いますが、それを活用するにあたってこの内容では薄いような気がします。

[部会長]

例えばですけれども、具体的な点として、委員のイメージでもう少しこういうことを盛り込んだらいいのではないかとか、あるいはここが今課題として難しいといった点について何かありますでしょうか。

[委員]

大学生をと期待しているわりには、地域の方がそれを受け入れるだけの状況になく、古民家があって住みなさいなどいろいろ言ってもらえますけれども、それを受け入れる地域の心というのも大切で、地域とマッチングできるような企画がないことには、勝手にやっているのではないかと理解される

こともあります。12年間やって、やっと私の町内の団体長会議にもだしていただけるようになりました。地域とのマッチングをうまくやっていかないと、大学はあるけれども、勝手にやっているといったようになり、言われてはいませんが、なかなか難しいこともありましたので、住民も大学があつてメリットがあるというような何かが盛り込めたらいいなと思います。

[部会長]

今お話がありました地域の方々への働きかけなども含めながら高等教育機関との連携を考えるという点について、どのように議論されていたかなどについて事務局としてはいかがでしょうか。

[事務局（企画課）]

大学を知（地）の拠点ということで総合計画でも位置付けている点、そこから地域の活性化を図っていくという点、お話にありましたように学生さんが地域に入り込んで活動していただくことで活力になっていき、定住していただく、いろいろな企業に就職していただくことで、良い循環をもたらしていきたいという思いがあります。ただ、学生さんは本来勉強していただくということがあり、活動へ参加していただくことを強制できるものではございませんので、大学と連携し、多くの皆様に魅力を感じてもらえるよう、社会参加する機会をつくっていくことで彦根市に少しでも魅力を感じてもらえるような取組が必要になってくるのかなという思いはもっております。

[委員]

お聞きしていました率直な感想ですが、大学、大学と大学頼みとなっていて、彦根市のひこにゃん頼みに通じるところがあると感じました。申し訳ございません、失礼なことを申し上げるかと思えます。

まず、私はこの彦根市が大好きで、約5年前に京都から転入させていただきました。ですので、大学生が移住するプランについては、私は全くもってナンセンスだと感じています。大学生の活気もこのまちでは全く感じたことがありません。私の生まれ育った場所は当たり前前に大学生がたくさんいて、まちじゅう大学生だらけというところで育っていますので、大学3校を拠点に何かというところは、私としては全く魅力を感じませんし、絵に描いた餅に感じます。

私が来た際に感じたこととしましては、本当にすばらしいまちだと思いました。それは私がこの年齢になってのことであって、大学生の年齢の時に私がこのまちに来てどう感じるかということ、はやく家に帰りたいと思うだろうと思います。このまちのために何ができるのかと考える時、人口を増やしていかなければならない、今のままでは絶対だめだと私も考えさせていただいた時に、どれだけ「やさしいまち」をつくっていくのかということではないかと思えます。このまちが日本の中でも唯一積極的に実践できるまちだと私は思っています。住んでいる皆さんの人柄であったり、悪い言い方をしますと、まだ未成熟というか、まだまだ伸びしろがいっぱいある、京都のように汚れていない、しらじらしくなっていないというところで、わたしはこのまちにとっても安堵感を覚えています。人と相対していても、この人は私のことをどう思っているのだろうといったことも、こちらに来てからは考えなくてもいいですし、そういった点をどんどん伸ばしていきたいと思っています。そういう意味で本当にやさしいまちづくり、例えば、歩道がベビーカーを押しても歩きやすい、お年寄りが手押し車を押しても歩きやすい、そういった点が当たり前前に整備されているまちづくりです。そうなると、車の往来も減ってくる、歩行

者が行き来しないとにぎわいというのは全く感じられなくて、いくらある程度の人口がいてもその方々が車で移動している限りは全くもって閑散とした状態になります。その中を子どもたちが行き来する時に、朝から水たまりの水をひっかけられたり、押しボタン式の信号を押して渡っているにも関わらず、車が突っ込んでくるというのもざらにあるというところで、車社会であるがゆえに、車が最優先させているようなまちづくりと感じずにはられません。人口を増やすという点で、そこも大切です。

また学校教育についても相当の遅れを感じました。特に小学校、中学校というのは、その地域に住めば通える存在なので、京都の中でも、その学校が人気が出れば、自然とその地域の人口が増えていくという現象が起こります。ですので、このまちでも小中学校の魅力をどれだけ上げていけるかということとは転入者を増やす大きな鍵をにぎっていると思います。そういう意味で、私の考えですが、大学ではなく、小学校、中学校が教育の中心になるべき場所だと思います。本当にコンスタントにつながります。全国的に響き渡るような、そんなすてきな学校が作れたとしたら、全国各地から、そういうところに通いたい方々が来てくださると思います。

私が一番恐れているのは、人口を増やしたいからと言って人參をぶら下げて、それに食いついてくる人たちがいろいろな地域からこのまちに集まった際に、このまちは転入者にむちゃくちゃにされます。兵どもが夢のあとで、だれも住めないようなむちゃくちゃなまちになってしまいます。ですので、私の個人的な考え方としましては、このまちは、全面的にやさしさ、思いやり、特にコロナ禍にあって人を見張るのではなく見守るという人間本来のやさしさを、このまちの方々はまだ忘れずに持っておられると感じています。そこをもっともっと引き出していける市政、まちづくりをやっていききたい、やっていっていただきたいと思います。私の頭の中にあるプランを、少しずつでも実践していききたいと動き始めさせてもらっています。

教育は子どもたちのことですが、教育の根幹を担っているのは大人、大人がかっこよければ、子どもも当たり前にかっこよくなっていきます。子どもたちに夢をもてといっても、みっともない大人では夢も持てません。ああいう風にはなりたくないと思って自分も育ってききましたが、その中でもこういう人になりたいという方に出会えて今こうしています。そういう大人と関わり合いになれるまちづくり、当たり前にあいさつもできる、知らない人とは話をしてはいけないと言われながらあいさつはしなさいという矛盾であったりというところも解決に向かっていくことができるのではないかと思います。

すべてが抽象的な表現になって、私のほうこそ具体的なことが何ひとつ申し上げられていないのは本当に申し訳ありません。ただ、私としましては、彦根市にしかない良さというのは、皆様のやさしさであると思っています。決して大学に依存する必要もないですし、皆様お一人お一人の人としての思いやりというところでお考えいただいたら、自然と人口も結果的には増えていくと思います。まずは下がります。まちづくりはお金もかかりますし、家の整備などいろいろなことがかかってきますので痛みもともなうと思います。でも将来的には必ず上がっていきます。そこに住みたいと思う人が全国に現れてくるので、必ず上がってきます。最終的には、私は彦根市は全国からあこがられるような住み良いまちにできると確信しています。

[部会長]

委員からお話いただいたことは、一部は次の「2-1-6 若者の定住・移住の促進」にも関わってくると思いますし、この部会に入っている「小学校・中学校教育の充実」や「子ども家庭支援の推進」にも関

わってくる点かと思しますので、今後も引き続きこの部会で審議していけたらと思います。

[部会長]

全体的な点で質問と皆様と協議したい点があります。全体の大枠についてですが、今回「現状と課題」「12年後の姿」「4年後の目標と指標」「主な取組」という構成になっているかと思えます。「高等教育機関との連携」についてみると、「現状と課題」に書かれている内容が、現状はこうですという内容が多くて、課題について今何が問題でどんな解決すべきことがあるのかという点が見えづらいと思えます。その点をどのように考えておられるかをお示しいただきたいということが1点目です。

次に「12年後の姿」「4年後の目標」に関連して、一体この「高等教育機関との連携」が何をめざすのかについても議論ができたかと思っています。連携は今いろいろな領域で言われることですが、私は連携は目的ではないと思えます。連携することが目的ではなく、何かを達成するために連携するものであるということを考えた時に、「高等教育機関との連携」を施策に入れることで一体何をめざすのかというところが重要になってくるかと思えます。その時に「12年後の姿」に書かれている内容が漠然としすぎではないかという点が気になっています。地域力を高める、地域社会の活性化をめざすというのは何でも入るもので、地域力とは一体何かということがわかりづらいと思えます。文言をどうするかということもありますが、この場ではどういうことを意図して地域力という言葉を使っているのか、どういう姿をめざすのかについて議論をしても良いのではないかと思えます。

そして、「12年後の姿」に達するために、そこからバックキャストして「4年後の目標」があると思えますが、そうだとするならば、「12年後の姿」に書かれるものは、「何々をめざす」という方向性ではなく、「こういう姿になっている」という状態像ではないかと思えます。その「12年後の姿」、どういう状態になっている、こういう課題が解決されているといった像に向かって、どういうことに取り組んでいくのかということ「4年後の目標」で「こういうことをめざします」ということが出てくるのではないのでしょうか。そういった関係性で考えた時に、この「高等教育機関との連携」がどう整理されるかについて、事務局のほうでお答えいただきまして、よろしければ、そのお答えをふまえて、皆様と、どういうことをめざすべきなのについて議論できればと思います。

[事務局（企画課）]

部会長よりご指摘いただきました、「現状と課題」において主に現状についての記載となっており課題についての記載が薄いという点につきまして、再度検討し、これから取り組んでいく必要があること、ここを解決していきたいといった点など、課題を明確にしていきたいと思えます。

「12年後の姿」につきまして漠然とした表現という点につきましても、めざす姿、何が解決されているかという姿、何を記載するのが良いのか、再度検討させていただき、第4回で提示させていただきたいと思えます。議論いただけるのであれば、深めていただけたらと事務局としても思えます。

[部会長]

先ほどの委員のお話にありました、大学生が勝手にやっているということではなくて、地域とのマッチングをすることや地域住民にどのように働きかけて一緒に連携していくのかということが課題としてあるのであれば、例えば、連携しているけれどもそこまでいっていないというのが解決すべき点とな

ってくるのではないかと思います。ですので、皆様もこの場で、現状の取組に加えて、現状でやられているが達成できていないこと、課題などがあれば共有いただき、大学との連携をふまえてどういうことをめざしていくのかという目標、方向性についてもご意見がございましたらこの場に出していただき、事務局に持ち帰っていただいて修正案を作成いただけると良いと思います。いかがでしょうか。

[事務局（企画振興部）]

昨日から部会が始まっていますが、昨日の部会では、「12年後の姿」に具体的なことを書きすぎているということで、ここを大きく捉まえて全体的なことを書いて、「主な取組」で具体的な取組、事業等を挙げていったほうが良いのではないかとのご意見もございました。大きい体系的な考え方を「12年後の姿」で書くべきという思いもありますが、書きぶりについては、調整会議等で各部会のすり合わせをしていただいて、部会長のご指摘のように見えやすい書き方にするのか、見えやすい内容は取組のほうで示すのかなどを調整会議の中でご議論いただくほうが良いかと思えます。この中で、地域力がわかりにくいということであれば、具体的な内容を書いて、それを調整会議で諮っていただくほうが良いかと思えますので、よろしくお願いいたします。

[部会長]

部会長と副部会長が参加して横断的に行う調整会議がございますので、そちらで調整するというところで引き取りたいと思いますが、その際にも、例えばこういう書き方があるなどは話すことができると思いますので、具体的なレベルでご意見をいただければと思います。

大学との連携の目的は何かと考えた時に、この資料から読み取れるひとつに、行政課題や地域の諸課題に対して、自治体だけではなかなか解決できないようなことについて、研究的側面や学生との連携・研究者との連携によって、解決していく足がかりにする点があるのではないかと思います。あるいは、現行の基本計画をみると、同じ項目に「大学での教育手法の一つである学生の地域での実践活動を支援するため、地域との橋渡しを推進する」と書かれています。「高等教育機関との連携」が「子どもが健やかに育ち、若者が躍動するまち」に入っている意味を考えると、地域課題を解決するためにただ大学と連携するだけでなく、「おとくら」の活動もそうだと思いますが、大学生が地域に参加して行って、地域のいろいろな人々や地域に出会い、地域のこと・彦根のことを知ることで、この地域はおもしろいとか、この地域に住んでみたい、もっと関わってみたいと、次の施策の「若者の定住・移住」につながっていくという方向性もあるだろうと思います。このように、大学との連携の目的をクリアにしていくと、いろいろな政策とのつながりが明確になっていくのではないかと思います。

何のために連携するのか、ご意見があればお願いします。

[委員]

12年間活動を続けている中で、学校からお誘いがあって、地域のことについての発表の場を先生がもっていただいて、学生が発表の内容を作って持って行ったこともあります。続けていくということ、見守りながら続けていける何かをしていかないと、大学があるからできるわけではなく、活動していく中でだんだん認められていくものです。今年卒業した学生で、「ここは第二のふるさとです。」と県庁へ勤めた学生もいます。滋賀県民になりましたとうれしく言ってくれた学生がいました。

そして、活動していく中で、広報の一面を何代目かの代表と飾らせていただいたこともあり、そういったことがあると、活動していく学生にも糧になります。単に大学があるからというのではなく、学生の若い力はすごいものだと思っておりますので、そういうことも考えてもらえるとありがたいです。

[委員]

企業としましては、大学生のインターンシップ等は受け入れております。積極的に受け入れているほうですが、就職に結びつくかという点、なかなか滋賀大学生等は地元で就職されるというのは結果としてなかったです。一部滋賀大学生の学生で市に就職された学生もいますが。

委員のお話に関連しますと、大学の連携が何のためにかという点については、地域が潤って、大学生のご本人が潤うような活動をしていけると一番いいのではないかと思います。皆さんが活動の場で、滋賀県、彦根が大好きだと思っていただくのが一番かと思います。

私の子どもたちは、小さいころから彦根が大好きだと言っておりますが、彦根にある3つの大学に行くかとなると、いったん彦根から出たいというもので、通学で京都に通っております。その点はうまくマッチできないところもありますけれども、いったん出てしまっても、彦根のほうがいいなと感じ、ゆくゆくは帰ってきたいと言っております。やはり小中学校の教育等も含めて、高校もそうですが、この滋賀県の彦根の良いところをもっともっと子どもたちに伝えるような活動、教育ができていくと、もっと違うのではないかと思います。

[部会長]

今お話しいただいたようなことを事務局のほうでももう一度検討していただいて、大学との連携はすでにかなり行われてきているところもあると思いますので、その上で現状の課題は何か、そしてその課題解決のために、大学との連携を深めることで何をめざしていくのかについてお考えいただけたらと思います。ともなって指標もかわってくるのではないかと思います。今回出している指標は現行と同じ指標ということでしたが、10年以上前に作られた指標と全く同じ指標で今後の10年を進めていくことは果たしてどうだろうか、時代の変化も激しい状況の中で、現状の課題をきちんととらえるところからスタートすることが必要ではないかと思います。

[委員]

小中学校の立場からしますと、大学に期待することはたくさんあります。各小中学校では、「ふるさとに誇りをもつ」ということを、どの学校も一つの柱に据えて教育を行っています。本校でも、自分のまちのことが語れる子どもを育てていこうということで、いろいろな時間を使って学習をしています。その時に例えば、博物館の方にきていただいて地域の宝であるものをより詳しく、子どもたちの誇りになるように語っていただいたりしています。地域にはいろいろな素材がありますが、地域の方だけではなかなか語りつくせないのも、そういうところで大学で調査研究されているというのがあれば非常に助かります。具体的には、荒神山には本当に素晴らしい環境があり、長浜の大学で研究されているということで、過去に連携したことがあります。そのように、市のほうで活動支援をしていただく事業を行っていただけると良いと思います。

[部会長]

「高等教育機関との連携」でもありながら、「小学校・中学校教育の充実」とも重なってくる点だと思いますので、今のご意見については引き続き議論をしていけたらと思います。次の定住・移住についてもそうですが、各項目でかぶってくるものがあると思います。他の部会とのかぶりもありますが、この部会の中でもあり、6項目の中でどの項目に書き込むのが一番わかりやすいのか、妥当なのかということもあるかと思えます。他の項目も議論しながら、全体像が見えてきてから遡って、どの項目に入れるべきかを話していけると良いと思います。

いったんここで「5 高等教育機関との連携」の審議を終わらせていただき、休憩時間を10分とり、15時10分再開をお願いいたします。

(休憩10分)

[部会長]

「2-1-6 若者の定住・移住の促進」のほうに入りたいと思います。まず事務局より資料の説明をお願いいたします。

[事務局（企画課）]

「2-1-6 若者の定住・移住の促進」の概略につきまして説明させていただきます。

「現状と課題」ですが、

◇本市では人口増の状態が続いていますが、その増加幅が限りなく小さくなってきており、高齢化による地域の担い手不足によりまして、地域コミュニティの維持が課題となっています。

◇平成27年度の彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を契機として、人口減少対策を行ってきている状況ですが、魅力ある住み良いまちづくりを進めることはもちろん、定住環境の整備や移住の促進によって、可能な限り人口減少を抑制していく必要があります。

この施策につきましては、現総合計画には盛り込まれておりません。まち・ひと・しごとという人口減少対策が出てきまして、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」ができたこともあり、次期計画から盛り込もうとするものでございます。

続いて、「12年後の姿」ですが、

◇「住みたい」、「住み続けたい」と思える魅力的なまちとなることで、住む人や移住した人が地域に定着し、地域コミュニティが維持・発展していくことをめざす。

◇まちに若者が増え、まちで活躍することにより、地域の活力が向上し、まちが活性化していくことをめざす。

これが、12年後の姿、状態でございます。

「4年後の目標」につきましては、

◇訪れた人や住んでいる人が「住みたい」、「住み続けたい」と感じる、快適で暮らしやすいまちづくり

2点目としまして、

◇まずは興味を持って、訪れ、そして移住へとつながるよう、移住希望者の関心を引き付ける情報の

提供、また移住相談によって将来的な移住者の裾野を広げ、各種支援制度により受入体制づくりを進める。

3点目としまして

◇結婚を希望する若者に対し、出会いの場の提供や、結婚を機に本市に移り住むことへの支援に取り組む。

ということを目標としてございます。これを推し測る「指標」といたしまして、

彦根市で実施している制度を利用して移住いただける人の数ということで、「移住施策による市外からの移住者数」を掲げております。

続いて「主な取組」ですが、

移住促進の強化

結婚支援の強化

で、多様な主体との連携による取組としまして、

◇地域おこし協力隊を移住コンシェルジュとして任用して、市の移住関係情報の発信や移住希望者への情報提供に取り組んでいる。

状況でございます。

関連する個別計画としまして、「第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略」がでございます。

以上が概略でございます。どうぞご審議よろしくお願いいたします。

[部会長]

「施策6 若者の定住・移住の促進」について皆様からご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

[委員]

2つ教えてほしいことがあります。「空き家バンク」はどのように運営されているのでしょうか。彦根市が全面的に行われているのか、どこかに委託されているのかということと、その実績についてお聞かせいただきたいと思っております。もう1点、「第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、もう少し詳しく教えてください。

[事務局（企画課、建築住宅課）]

（企画課）「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について簡単にご説明させていただきます。彦根市、今のところ人口は微増の状態が続いておりますが、今後人口減少社会に突入していくということがございまして、少しでもそれを緩やかにして人口減少を何とか食い止めていこうというのが大きな目的としてあるものです。そのために、これまで彦根市で様々な施策を展開しておりますが、従来縦型で実施していたそれぞれの施策を有機的に左右させ、横ぐしで施策を展開していくことで人口減少を食い止めていこうということを「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画に定めて進めていこうとしているものでございます。いろいろな施策がぶら下がっておりまして、それぞれ担当課のほうで実施しますが、進捗状況等を相互に確認しあいながら施策を展開しているところでございます。

（建築住宅課）「彦根市空き家バンク」についてご説明いたします。平成30年7月に「彦根市空き家

バンク」を創設いたしまして、空き家の利活用を推進するために、所有者と利活用希望者とのマッチングを図ることを目的に、「彦根市空き家バンク」の運營業務を、「彦根異業種交流研究会 町屋活用委員会」に委託をしております。委託先の「彦根異業種交流研究会 町屋活用委員会」は、彦根商工会議所の「彦根異業種交流研究会」内の委員会で、不動産業者をはじめ地元の企業が多数参加している団体でございます。彦根市と協定を締結し、地域の重要な資源である空き家等の利活用や居住環境の充実、地域コミュニティの形成を図ることを目的として活動していただいております。空き家に関します相談業務等も実施していただいております。令和2年度末時点で空き家の成約件数は13件という実績でございます。

[部会長]

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきまして、1つ、2つ具体例を挙げていただくと、もう少しわかりやすいかと思えます。横ぐしでさした時にどのような事業が展開されているかをお聞かせいただければと思えます。

[事務局（企画課）]

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」ですが、基本的な考え方の大きな項目で、「地域資源を生かし、定住人口の減少に歯止めをかけ、交流人口および関係人口を増加させる」がございまして、それぞれ施策にKPI、指標を定めまして取り組んでいます。例えば、「地場産業の人材確保・育成および競争力強化」という施策では、「彦根仏壇職人等後継者育成事業」で補助金を出していますが、その補助対象者数を引き上げていくというのがございまして。子育てに関する施策として、「結婚から子育てまで切れ目のない支援」では年間出生数の目標値を掲げています。平成30年の現状値を基準値として令和6年度には何人に増やす、維持するといった、人口減少に歯止めをかけるための施策について、それぞれの分野分野で目標を掲げて具体的に取り組んでいくという内容になっております。

[部会長]

他に質問や、ここが重要である、ここは追加すべきなどの点についてご意見いかがでしょうか。

私のほうから大きくひとつ申し上げます。この施策は「若者の定住・移住の促進」ですが、全体としてほとんど定住より、移住の視点に限られているのではないかという点が気になります。課題では定住についても多少出てきますが、「4年後の目標、指標」がほとんど移住のことになっており、「主な取組」においては全て移住者向けになっています。定住という側面を考えなくてはいけないのではないのでしょうか。定住に関しては、移住もそうですが、いくつかの領域に課題がまたがると思えます。特にここは若年層の定住の話なので、若年層が住み続けるということを考えると、ひとつは雇用の問題があります。二つ目には、雇用とも重なりますが商工業の振興・発展、例えば買い物がしやすい、そういう企業があるということが日々の生活の豊かさにもつながり、雇用の促進にもつながるといった側面があると思えます。この2つはどちらかと言えば第3部会の産業等に関わってくると思えます。そして、三つ目に他にインフラ、市街地整備、交通や公園などの環境整備も大きいと思えます。それは第4部会の都市基盤に関わる領域だろうと思えます。最後四つ目に、この部会に関わり重要だと思えますのは、やはり子育て支援です。若者世代において、子どもが育つ環境をどのぐらい豊かに用意できるかということが

定住において非常に重要になってきます。子育て支援については、この部会の「子ども家庭支援の推進」「乳幼児の保育・教育の推進」また学校教育にも関わってくる事柄です。それらの書き分けをどうするかはありますが、いずれにしても定住という視点を盛り込んだ時に今言ったような視点がないと、ただ単に結婚支援を強化しても、住み続けるということにはならないだろうと思います。

雇用、商工業の振興、市街地の整備、子育て支援などの関わる全てのことが有機的に関連しあいながら整備される中で、4年後の目標にある「快適で暮らしやすいまちづくり」が描かれなければいけないと思います。どのぐらいのレベルで姿や目標を書くのかという点ではありますが、目標にある「快適で暮らしやすいまちづくり」が今挙げられている「主な取組」に回収されるのかというと、難しいだろうと思います。「快適で暮らしやすいまちづくり」の具体的な内容をどのように設定されているか、案を作成する際にもし議論があったのなら教えていただきたいと思ひますし、盛り込むべき内容についてここで審議できると良いと思ひます。

[事務局（企画課）]

ご指摘いただきましたように、移住の側面が強い内容となっておりますので、定住の内容を盛り込めるように検討させていただきたいと思ひます。定住につきましては、1市4町での定住自立圏構想というのがございまして、その中では1市4町が連携して婚活のイベントなども行っております。令和2年度につきましてはコロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施できませんでしたが、そういったイベントなど、若者の結婚支援などに取り組んでおります。そういった要素も含めて、定住について盛り込むことを検討させていただきます。

「主な取組」の「移住促進の強化」の最後に、内容として「各種の就職説明会の情報などを移住希望者に発信し、市内企業への就職促進を図ります。」を記載しております。ご指摘いただきましたように、企業さんへの就職ということで安定した収入の確保ということも大事になってくると思ひます。また買い物やインフラ、交通、子育て支援で別の施策もありますので、整理も含めまして少し検討させていただきたいと思ひます。

[部会長]

子どもを育てるのに育てやすいまちかどうかは、若者世代にとっては非常に重要なポイントになると思ひますので、この部会の他の審議事項でもありますが、ここにも重なる形で盛り込んでも良いのではないかと思ひます。

他にいかがでしょうか。

[委員]

空き地がほしくて市に掛け合ったところ、隣の家がもう何十年も空き家で、所有者がわからず境界確定ができないので結局手に入れられなかったということがあったのですが、空き家バンクとして扱えない空き家、実際には手出しができない空き家は現状として彦根市にはどのぐらいあるのでしょうか。

[事務局（建築住宅課）]

空き家バンクに登録できないような老朽化や管理不全の状態にある空き家につきましては、市で把

握しております件数は、地域の住民の皆様、自治会からの情報提供によりまして確認させていただいており、現在累計で情報提供いただきました総数は337件ございます。その中で、市のほうから適正な管理をしていただくように是正を促した結果、是正に至ったのが232件で、是正率約69%という状況でございます。

[委員]

管理不全というのは、空き家に関する法（※空家等対策の推進に関する特別措置法）によって潰さなければいけない空き家なのではないでしょうか。まだ使える空き家がたくさんあるように思います。「おとくらプロジェクト」では、近江商人であった不破さんのご協力によって活用できるようにしていただきました。元郵便局あとをギャラリーにしたり、学生の力と一緒に、楽しむということをやっています。そういった家がたくさんあるような気がします。潰すべきではなくて、活用すべき空き家はどのくらいあるかを認識していただくほうが、前向きなのではないでしょうか。潰してしまうのは、使わないので潰れていくのであって、そういうように空き家を認識してほしいと思います。

[事務局（建築住宅課）]

管理不全の空き家につきましては、まったく住めない状況にある空き家に限らず、瓦が落ちているなどで周辺の住民の皆様にご迷惑が及ぶ恐れがあるような状況であるとか、庭木が放置された状況で環境上よくない状況であるといったようなことも含めた意味であると理解しております。また、利活用を図れるような程度の空き家につきましては、空き家の所有者の皆様へ、ぜひ空き家バンクに登録いただくことで、空き家の所有者と利活用希望者のマッチングを図ることができますので、そういった試みも重点的に推進しております。

[部会長]

ぜひ推進していただきたいということですので、お願いいたします。

他はいかがでしょう。

「主な取組」の一覧ですが、ここに挙げられているもので、今すでに行われているものと、これから新たにこの計画によって行っていくものとの判別がつかないのですが、ご説明いただくことは可能でしょうか。今ここが行われていて、ここを追加するといったことでも結構ですのでご説明お願いいたします。

[事務局（企画課、建築住宅課、地域経済振興課）]

（企画課）1点目の「移住ポータルサイトやSNS、首都圏で開催される移住フェアへの出展」につきましては、現在も取り組んでいます。それを充実させるという意味合いでございます。

2点目の「移住後の生活を具体的にイメージできるよう、移住体験や市内案内」につきましても、問い合わせ等いただきましたら、対応させていただいており、現在でも取り組んでいるものです。

3点目の「移住に関する経済的なハードルを下げると、補助金等の支援制度によって移住への後押し」につきましても、様々な移住促進住宅の補助金や東京圏からの移住に対する移住支援金などの補助金を設けております。さらに、ニーズを把握しながら、今の現状で良いのか、他のことを考えていくべ

きかということを含めて検討していく余地があると考えています。

(建築住宅課) 4点目の「空き家バンクなどを通じて、移住希望者に活用可能な空き家を紹介することで、移住希望者の住居確保と空き家の活用促進を図る」につきましては、現在推進しているところでございます。

(地域経済振興課) 5点目の「各種の就職説明会の情報などを移住希望者に発信し、市内企業への就職促進を図る」につきましては、現在彦根管内にあります企業様ならびに商工会議所、ハローワークなどと連携しまして就職説明会のほうをさせていただいております。移住希望者のみならず、広報ひこね、ホームページや関係各課の情報によりまして、学生ならびに卒業3年以内の方々を対象に就職説明会を現在も行っています。

(企画課) 次の「結婚支援の強化」の1点目「本市への移住を希望する新婚世帯を対象として、結婚に伴う新生活を経済的に支援」につきましては、結婚生活支援補助金という、移住される方の引っ越し費用の補助金を設けており、これにつきましても現在実施しています。

2点目の「ホームページや広報により、結婚支援に関する情報発信」につきましても、ホームページ等でお知らせをしている状況でございます。

[部会長]

基本的には現在も行っておられることがベースになると認識しましたが、今後「主な取組」でどのぐらい具体的な内容を書くかは調整会議での調整になりますが、いずれにしても今やっている取組だけを並べるだけでは新たな10年に向けた、あるいは4年後に向けたものになっていきづらいのではないかと思います。例えば、「充実する」という時に、特にこの点で充実するといった、より具体的、あるいは焦点化した点について書いていく必要があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

[事務局（企画課）]

目標を達成するために現在取組を進めている点と、これを充実させることによってさらに周知等して増やしていく意味合いがあると思います。また、他市の事例やいろいろなところで実施されている効果的な取組等があれば、ここに記載していない取組でも、当然ながら研究して取り入れていくこともあるかと思います。なかなか現段階で何をすると書くのが難しいという取組もございます。

[部会長]

全ての項目において書けるかという点と難しいとは思いますが、例えばこの施策「若者の定住・移住の促進」に関連して、12年後、4年後の目標に向かって進んでいくために重点的に行う必要がある項目など、新たに焦点化する項目を、施策ごとに1つか2つは意識して書けるものがあっても良いのではないかと思います。全体とも関わる点かと思しますので、調整会議でも共有させていただこうと思いますが、せっかく計画を作りますので、今までと同じものを並べるだけでなく、ここが新しい、ここを少なくとも4年間では焦点化していくといった意識を、計画を作りながら作っていくことができると良いのではないかと思います。

[委員]

文面において、「市内の企業への就職促進」など、市内というのが目につきましたが、彦根という場所は電車通勤するのにとても便利で、乗り換えなしに姫路まで行けますので通勤圏内だと思います。行く時は座れるので、むしろ楽に通勤できます。そういう意味で、移住者を募るのであれば、市内だけでなく企業さんとしても他府県など市外に就職先をみつけるとか、今後コロナの影響でリモートが増えたと彦根にいながら仕事がさせてもらえるなどの企業さんと関係を作っていくなど、それが移住・定住につながっていくのではないかと思います。どのようにお考えでしょうか。

[事務局（企画課）]

おっしゃっていただきましたように、彦根市の交通の利便性が高いことから、仕事に行ける圏内は広く考えられると思います。当然、移住の際のご要望の中でニーズを把握させていただいてご相談に応じるのが第一ですが、彦根市として計画を立てる中で、市内企業さんの活性化という面も盛り込みたいという思いもありますので、できるだけ市内に就職していただけるのがありがたいと考えます。ただ、ご要望等はお聞きしながらということになるかと思っております。

[委員]

壮大なイメージをして、移住者がどんどん増えていった時に、定住者がどんどん増えていった時に、市内企業だけでそれを受け止められるのかという点から発想したものです。よそに働きに出て彦根市に住むというもうひとつ大きなメリットが、山があり、川があり、湖があり、本当にオフを満喫できる、本当に癒されて仕事に向かえるという良さがとても大きいと思います。そのへんももっともって全面に出してもらえたらと思います。

[部会長]

今のお話は、雇用という点よりもむしろ子育て支援、子どもを産み育てやすい地域環境、まちをどうつくるかという点で重要なご指摘だと思います。そういう意味で、この「若者の定住・移住の促進」に彦根市に住んで市外で働くという発想も押さえておくポイントかと思います。

[委員]

「現状と課題」に「高齢化による地域の担い手不足によって、地域コミュニティの維持が課題となっています。」と簡単に書かれていますが、本当に大変な地域があるというのも事実だと思います。私の地域では、昔は商店街があり、花火は現在も行っておりますが、花火などの行事を行ったりしていましたが、その維持が難しくなっているのが現実です。そのような中、この部会だけでは解決できないとは思いますが、「住みたいまち、住み続けたいまち」にするにはどうすれば良いのかをもっと全面的にアピールできる何かをしていかなければ、絵に描いた餅になってしまうという気がしてなりません。他の町では自治会に入らないということで、自治会が存続できないということを知ったことがあります。そういった現実もきちんと見ていき、全体にわたって調整いただかないと、問題はひとつのような気がします。

[事務局（企画課）]

おっしゃっていただきましたように、当然ながら、人口が減少していくことは現状として避けられない、そこを彦根市としてどのように少しでも緩やかにするか、維持できるかということに対して、そういった魅力なりまちづくりをしていくか、今住んでいる方には住み続けていただく、また魅力を感じて入ってきていただく、そういったことを総合的にやらなければならないと思っております。それが、この移住・定住の促進ひとつでは解決できないということもありまして、いろいろご指摘いただきました子育て環境の整備、インフラ整備などを総合的にみていくことが計画に入っていると思いますので、総合的に取り組んでいきたいと思っております。

[部会長]

今のご指摘を含めて、これまで話してきたこと、「住みたい、住み続けたいと思える魅力的なまち」とは一体どのようなまちか、「快適で暮らしやすいまち」とは一体何だろうかについて、具体的などころがもう少し計画の中で見えてくる、あるいは「主な取組」の中に書かれてくるということが必要だろうというご意見だと思います。事務局のほうで持ち帰っていただきまして、どういう要素を盛り込むべきか、他の施策とのバランスも考えながら検討していただきたいと思っております。ただヒントになるかと思いましたが、「5 高等教育機関との連携」の「主な取組」で、「市内3大学卒業生をはじめとした若者の定住促進」が書かれており、これは、この「若者の定住・移住の促進」に書かれてもいい項目ですが、大学との連携を重視して、「5 高等教育機関との連携」に書かれていることだとしますと、このように、両方にまたがるけれども、より重要なのはこちらに書くべきとの判断をしながら具体的なことを盛り込んでいくことができると思います。「若者の定住・移住の促進」を考えた時に、「住み続けたい、住みたい」と思えるようなまちづくりを進めるにあたって必要な取組として位置付けるものは基本的には書いていけば良いのではないかと思いますので、ご検討ください。

[委員]

人口について、いかに緩やかに下げていくかということに思いがいつているのではないかと思います。ゆっくり下げるのではなく、上げるという発想でこの問題は取り組んでいただかないと本当の意味での解決にはならないと思います。緩やかであれば、下がり続けるのであれば、いつかはなくなってしまうという状態であるならば、一日もはやくここから逃げ出さないとという発想になってしまいます。そうではなく、ここでは上げていくイメージをもって作っていただいたら、読む者にも希望を感じられるでしょうし、人口増につながっていくと思います。

[委員]

始めに部会長よりお話がありました、「住みたい、住み続けたい」だけでも「住み続けたい」という点が「主な取組」の中にあまりないということを感じました。彦根市の南部に住んでいますが、住み続けたい人がどんどん減って行って、地域もお年寄りばかりになっています。そこが一番力を入れていかなければならないのではないかと感じています。まちづくりのマネジメントをしていかなければ、改善されないのではないかと感じていますので、何かそこに一手を投じるような施策があればと思います。

[部会長]

南部という点につきまして、事務局から何かございますでしょうか。もしありましたら、簡単にお願ひします。お考えいただいている間に、他の委員のほうからお話しいただきたいと思います。

[委員]

皆様からお話があったように、住み続けたいまちにしていかなければいけないということで、いろいろな施策をしながら、とても楽しいまちになるという感じにしていきたいと思います。移住に関しては、まずお仕事はどうかという点が問題視されるのではないかと思います。雇用の問題はとても大切だと思いますが、私のほうでは、「ふるさと兼業」という、専門的な方にデータをお送りして、データの分析等をフィードバックいただく支援をいただくことにも取り組んでおります。そこで企業等に興味を持っていただいて、彦根のまちのことも興味を持っていただくことにつながっていけば、移住のことも考えていただけるのではないかと、率先して取り組んだりしております。そういったことも考えていただいて、すてきな彦根のまちにしていいただければと思います。

[事務局（企画課）]

南部の取組ということで特化したものはありませんが、彦根市の都市計画マスタープランという計画を作っておりまして、その中で全体構想と地域別構想があります。まちづくりのめざす姿として、市街地と南部地域、市街化調整区域とでまちづくりのコンセプトもかわってきますので、その中で、例えば稲枝地域であれば「稲枝駅を中心とした定住促進ならびに居住環境と自然・田園環境との調和したまちの形成」をコンセプトに取組を進めております。稲枝地域、河瀬地域、市街地、新市街地、旧城下町地域、鳥居本、彦根駅東地域、南彦根駅東地域、それぞれの地域別構想に基づいて、居住を誘導する等の取組を進めております。それらに基づいて定住促進を進めていきたいと考えております。

[部会長]

これで「若者の定住・移住の促進」についての審議は終えたいと思います。これで審議事項全て終わりですが、その他として事務局よりご連絡があればお願いします。

(4) その他

[事務局]

冒頭にも申しました通り、日程調整表を部会長、副部会長様以外の方にはおかせていただいておりますので、ご記入いただきまして、ご提出いただきたいと思ひます。

また、他の部会でご意見があった点で、この部会が終わった後に、もう少し言い足りないことがあった、もう少し言いたかったなどがあれば、どんな様式でも結構ですし、メールなり、ファックスなりで結構でございますので、事務局に言っていただければと、事務局のほうでも対応を検討させていただきたいと思ひております。第3回の会議までにいただければ修正は間に合うかと思ひますので、もしございましたら、随時事務局にご相談いただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

4. 閉会

[部会長]

本日は多くのご意見をいただきましてありがとうございました。2つの審議事項でも時間が足りないくらいという感じであったかと思いますが、このようにフラットに、そしていろいろな意見をいただきながら、事務局でも意見をふまえながらご検討いただくというように繰り返していけたらと思います。

今後も一緒にご審議いただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、本日は終了といたします。

(以上)

彦根市総合計画審議会 第2部会 第1回会議 出席委員名簿

(五十音順・敬称略)

第2部会

担当分野：子育て・次世代育成・教育

所 属 等	氏 名
株式会社千成亭風土 取締役	上 田 美 佳
公募委員	加 藤 義 朗
滋賀県立大学 准教授	原 未 来
彦根市PTA連絡協議会 アドバイザー	樋 口 吉 範
彦根市小・中学校長会 稲枝北小学校 校長	山 本 かおる

彦根市総合計画審議会 第2部会 第1回会議 出席職員名簿

教育部長(彦根市総合計画検討委員会第2部会副部会長)	広 瀬 清 隆
企画振興部長	長 野 繁 樹
企画振興部次長	馬 場 敬 人
産業部次長	稲 野 善 行

他 説明員 3名